

20 狛江古代カップ多摩川いかだレース実行委員会

まちづくり



【講評】

狛江市の代表的魅力である多摩川に根ざしたこのイベントは、既に狛江の風物詩として定着しています。また、市民の有志によって運営され、財政的にも自立していることは特筆に値します。平成16年に発生した中越地震の際、狛江市による新潟県川口町への支援の初動が素早かったことも、いかだレースによる交流が近隣地域にとどまらず、ふるさと友好都市である新潟県川口町とも長年に渡り続けていたおかげともいえます。また、平成18年に山梨県小菅村と住民交流友好都市の締結がなされた背景にもいかだレースによる交流の継続がありました。このように、このイベントは多摩川と親しむ機会を提供するイベントとしてだけでなく、内外の市民の交流の場としても、狛江のまちづくりに大きく貢献していることが高く評価できるものです。

【推薦コメント】

多摩川の夏の風物詩「多摩川いかだレース」は平成19年度で17回目の開催の実績を積み重ねてきました。市民有志で構成される実行委員会で実施・運営されていて、市からの予算支援はなく、財源、運営スタッフ、多数の商品などはすべて自前で対応しています。実行委員会ではレースを単なる一過性のイベントで終わらせるのではなく、市のまちづくりのコンセプトのひとつである「多摩川を生かしたまちづくり」を推進するため、多摩川を通して流域住民との交流を積極的に進めることを目的としています。平成18年10月に、市と多摩川流域地域である山梨県小菅村の間で住民交流友好都市の関係が結ばれましたが、これは実行委員会と小菅村との積極的な交流が実を結んだものです。また、実行委員会ではいかだレースと小菅村、山梨県丹波村、奥多摩町のイベントをスタンプラリーで結ぶ「多摩川イベントラリー」やこの4団体で実施する「多摩川流域郷土芸能フェスティバル」の企画・運営を行うなど、多摩川を生かしたまちづくりに大きく貢献しています。

受賞者：狛江古代カップ多摩川いかだレース
実行委員会

推薦者：高橋 尚子 さん